

# 晴れた日には出かけよう！ ～まちのミリョクを再発見!!～

22

みのくち かねは  
水口の「鉦張り念仏」



かね  
鉦の音にびっくり！そして素朴な地元の夏まつり情緒に心が温まります。

水口の鉦張り念仏は、『水口の双盤念仏』として平成3年(1991)、東京都無形民族文化財(風俗習慣)に指定されました。



大音響の鐘の音が本堂に響き渡ります

双盤念仏とは、平安時代以来の引声念仏の流れを汲むもので、鉦と太鼓を打ち鳴らしながら、これに合わせて独特の節をつけて念仏を唱える仏教行事です。すでに江戸前期には双盤講が結成され、江戸やその周辺の村落で盛行し、明治末から大正期にかけて爆発的に流行しました。都内に伝承される仏教行事としては注目されるものの一つです。かつては各地で多く見られた仏教行事でしたが、今ではそのほとんどが途絶えてしまいました。現在は、日の出町の鉦張り念仏、武蔵村市の薬師念仏鉦はり、大田区の今泉延命寺双盤講、府中市の車返本願寺結衆講の4つ双盤念仏が都の文化財に指定され、伝承されています。

多摩地域ではかつて、八王子大横町の大善寺の鉦張り念仏がよく知られていました。しかし、大善寺の双盤念仏も既に途絶えています。伝承では、水口の鉦張りとも縁があったとされ、水口の鉦には「八王子金田屋新兵衛」の銘が残されています。

水口の鉦張り念仏の起源は定かではありませんが、鉦に刻まれる年号から天保13年(1842)には既に行われていたと考えられます。昭和初期には、落雷による西徳寺の火災と、時を同じくして始まった太平洋戦争のため、残念なことに一時途絶えてしまいました。その後、昭和40年(1965)頃になると、地域の有志の手によって鉦張りの復活に向けた活動が開始されます。しかし、関係書類が火災により焼失していたために作業は難航。戦前の鉦張りを知る、わずか2人の記憶を頼りに、まさに手探り

での復活となりました。

ここに鉦に関するエピソードがあります。戦時中、資源の乏しい日本では、軍需資源として金属製品は国に供出されていました。当然、西徳寺の鉦も供出されるはずでしたが、とある檀家が預かっていたことで幸い供出を免れたそうです。しかし、鉦張りの舞台となる西徳寺の梵鐘は残念ながら供出されてしまい、現在も復元に至っていません。

水口の鉦張り念仏は、毎年8月の17日に近い日曜日に西徳寺で奉納されます。この日はご本尊の馬頭観音の縁日で、例年ですと夕方5時過ぎと夜8時頃の2回、奉納が



ご本尊さまの縁日

行われます。唱えられる念仏は、唐の時代の発音によるものらしいので、なにかの呪文の様にも聞こえます。そんな念仏と打ち鳴らされる鉦の音を聞いていると、とても神秘的な気持ちになってきます。ただし、近くで鉦の音を聞くとときはご注意ください！あまりの大音響ぶりに本気でびっくりするはずです。

縁日では、夕暮れの境内に灯籠の火がともされます。そして地元の皆さんによる模擬店が出され、傍らでは子どもたちが花火をして楽しむ…。そんな素朴で心温まる夏まつりの光景を楽しむことができます。

## アクセス



日の出WALK(観光マップ)【I-6】

